

野営管理章報告書

日本ボーイスカウト大分県連盟

第 団 隊

氏名 _____

(1) 野営計画時において次の項目について点検し。点検報告書を提出のこと

No.	項目	観点	評価点	MEMO
(1)	キャンプ地の選定 (水質調査含む)			
(2)	食料および燃料の手配			
(3)	便所とゴミ捨ての衛生処理			
(4)	班サイトの立地条件 (炊事場・かまど配置条件を含む)			
(5)	現地における緊急対策			

(2) 朝と夜の点検の重要性と心構えについて説明し、朝と夜の点検項目表を作成し、それを用いて実際のキャンプにおいて点検を行い、報告する。

朝の点検

--

夜の点検

--

朝の点検項目 野営基準の維持・安全・衛生を中心に行う。

- (1) 班員の確認 (2) テント (3) 調理場 (4) 衛生

夜の点検 (安全・整理を中心に行う)

- (1) 安全と衛生 (2) 整理整頓 (3) 就寝状況

(3) キャンプ中に起きるかも知れぬ突発事故(例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など)が起きた場合の処置について説明できること。

--

(4) 次のキャンプ用具の格納・保管にあたり、行うべき処置を知りこと。

部位	格納・保管にあたり、行うべき処置
テント、フライシート	
グランドシート	
ペグ	
工具	
炊具	
毛布	
ロープ類	

(5) 水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理につき、特に注意する点を説明できること

(6) キャンプにおいて朝礼、スカウトOWN・サービス、キャンプファイアを計画、実施しそれぞれの意義について説明する。

(7

)隊、地区または県連盟など 1 個隊以上の規模で行われるキャンプ、または常設キャンプ場の管理に通算 3 昼夜以上奉仕した経験がある

奉仕記録

期間	泊数	場所	参加人数	活動内容
年 月 日 ~ 年 月 日				
年 月 日 ~ 年 月 日				
年 月 日 ~ 年 月 日				

上記の通り奉仕したことを証明する 隊長サイン

夜の点検

項 目	班	班	班	班
テントの管理				
工具の管理				
炊事場の衛生管理				
サイト内の改善				
就寝状況				
隊総合評価				

朝の点検

項 目	班	班	班	班
キャンプテント				
食堂フライ				
テント内の衛生				
工具の管理				
安全・整理				
炊事場衛生管理				
食料・調理の管理				
炊具の衛生管理				
野営工作				
チームワーク 個人の健康管理				

点検・講評について

*点検は、スカウトに対する指導者の細心の、注意深い、そして寛容な生活指導の場である。

1. 点検の目的、心構え

(1) 点検を行う目的

- ア 点検を通じてスカウトにさらに接触し、人間関係を深める。
- イ 点検と講評によって日々の改善を促す。進歩への足がかりとする。

(2) 点検の目標

- ア 野営基準の維持
- イ 班制度の維持
- ウ 規律の維持
- エ 整理・整頓
- オ 衛生・健康
- カ 災害防止
- キ 班意識の昂揚

(3) 点検の分限

- ア 隊長は、点検の主責任者となり、各班を総合的に評価する。他の指導者と話し合い日頃からスカウト個々の性格等を評価しておくことが必要。
- イ その他の指導者は、隊長の補佐として、それぞれの分担項目を重点に点検する。
- ウ 班長は、あらかじめ自主点検及び班内の相互点検をしておくよう指導する。

(4) 点検に立ち会う者の心構え

- ア 制服を正しく着用する。
- イ 規律正しく、厳格に、かつ心にゆとりを持って。
- ウ 粗探しをしない。良い点、進歩した点を見つける。
- エ 褒め、勇気づける。改善、進歩に対する暗示を与える。
- オ 機転とウイットをもつ。

(5) 点検を受ける者の心構え

- ア 制服を正しく着用する。
- イ 規律正しく、謙虚な心を持つ（素直さ）
- ウ 最善を尽くす。
- エ 班長は班員のすべてを把握していること。

2. 朝の点検

(1) 班員の確認

- ア 全員正装で班旗を先頭に、テント前に整列する。但し、雨の場合は雨具を着用してかまわない。

イ 班長は班員の異常、事故、サイト内の異常の有無を、隊長に報告する。

(2) テント

- ア 配置・・・生活しやすいか。日照、雨、風向、地形、地質、水はけ、樹木等に対する配慮がされているか。
- イ 整備・・・自在（ランナー）の調節、張り綱（柱綱、腰綱）の方向と長さ、ペグ列
- ウ 乾燥・・・ウォール、ソドクロス、グランドシートの処理。内部の乾燥
- エ 工夫・・・土地が狭い場合の張り綱の処理など
- オ 整頓・・・汚損の有無。内部及び周囲の清掃
- カ 進歩・改善・・・前日と比較してみて生活しやすいような改善があるか。

(3) 調理場

- ア 配置・・・作業に便利か、班員の行動に邪魔ではないか。衛生的か。当番以外の立入を制限する配慮があるか。
- イ かまど・・・適当な大きさか。熱効率が良いか。作業しやすいか。
- ウ 食料貯蔵庫・薪置き場・・・清潔・衛生的であり、湿気・温度（熱）に対する配慮がされているか。
- エ 炊具・工具等・・・整理・整頓されているか。手入れはどうか。危険防止の措置がされているか。
- オ 調理台・給排水・・・目的にかなった工夫がされているか。
- カ 塵芥処理・・・固形物と水を完全に分ける工夫がされているか。
- キ 進歩・改善・・・前日と比較して改善の努力がされているか。

(4) 衛生

- ア 便所・・・場所の適否、手洗い消毒設備等、正しい使用がされているか。
- イ 乾燥・・・毛布・寝具、敷き藁・シート等、テントの内外も乾燥に心がけているか。炊具食器等は直射日光にあてて乾燥させる。（ふきんは使用しない方がよい）。個人の持ち物をリュックサックから出して風を通すのも良い。
- ウ 衣類・・・清潔であるか。（汚れ物はためずに洗濯する）
- エ 個人衛生・・・歯・手足・爪・頭髮等の手入れがなされており、清潔であるか。睡眠・便通の状況を報告させる。

(5) 実施上の注意

- ア 朝の点検は朝礼前に実施する。野営期間中点検の時間は変更しない。点検を始める前に信号等で知らせる。抜き打ち点検はしない
- イ 巡回点検の班の順序は不公平の内容に。
- ウ 点検は評価のためのものである。粗探しではない。野営の規律、安全・衛生を確保しスカウトの進歩を励ます手がかりとして行うものである。
- エ 点検のねらいは、指導者の間で十分討議・理解し、隊長や他の指導者間で意見が違っているようなことがあってはならない。

オ 点検・講評は、指導者が協力して行うもので、隊長の個人プレーではない。他の指導者はその分担に従って手早く点検する。

カ 日によって、または状況に応じて点検の方法や重点を変えるのも良い。

(例) 第2日・・・野営の基礎（班のまとめ、適当な食事、適度な睡眠等）を重点として指導者が一団で巡回点検する。

第3日・・・快適な野営生活（班内の分担と協働、楽しい食事、快い睡眠等）を重点として、各指導者は分散して同一時間内にすべての班を点検する。同時に各班は自主点検をするのも良い。

第4日・・・高度の野営生活（すべてにわたる進歩、改善、創意工夫、新しい野営工作物の作成等）を重点とする。相互に点検し合っ
て指導者の行う点検と比較してみるのも良い。

キ 班に対する意見や批判等は、なるべく点検の現場で行う。

ク 班員の目の前でメモや採点等は絶対にしてはいけない。

3. 夜の点検

(1) 安全と衛生

ア テント・・・内部換気の配慮。ランナーの調整。フライシートの張り方。排水溝の整備等（テント内の裸火使用は禁止しておく）

イ 炊具・工具・・・保管状況と安全に対する配慮。

ウ かまど・薪・・・火の始末。火床に対する雨・夜露の対策。翌朝のための薪の用意。
薪の雨対策

エ 食料品・・・野獣等の被害を受けないための対策。

オ 汚物処理・・・1日の汚物・塵芥等が完全に処理されているか。（焼却が望ましい）

(2) 整理整頓

ア 班装備（炊具・工具等）をそれぞれまとめ、いつでも使用できる状態で保管してあるか。

イ 個人装備はリュックサックにまとめ、身近においてあるか。

ウ 水缶は、新鮮な水で満たされているか。

(3) 実施上の注意

ア 消灯直後に行う。遅くとも1時間以内に終わること。

イ その日1日でどのくらい進歩改善がなされたかを見る。

ウ 安全衛生上不備な点があれば一応修正措置を施しておき、次の朝の点検または講評で注意する。場合によっては班長を起こして改善させることも必要である。

エ 音を立てたり、懐中電灯で照らし回したりしないこと。

4. 講評・表彰

(1) 実施方法

ア 毎朝、朝礼前に行う。

イ 点検者を代表して隊長が行うが、担当者が担当分野の講評をして、最後に隊長がまとめるのも良い。

ウ 各班の生活状態とその進歩についての評価を公表する。欠点を指摘してそれを攻めるのではない。良い点を褒め、悪い点は改善を促す。

エ 評価は工夫、改善、進歩、向上を励ますものとする。

オ 評価は分かり易く親切に行う。

(2) 優秀班

ア 優秀班を決め表彰することは効果のあることが多い。

イ 決め方としては”一番優秀な班”、”基準点を突破した班全部”等のやり方があるが、どんな方法でするかは、指導者間の話し合いによる。

ウ 基準点は毎日高くしていく。

(例) 第1日：40% 第2日：50～60% 第3日：70～80% 等

(3) 留意点

ア 短い評価をするように心がける。平易な言葉で端的に、面白みを加えて退屈にならないように。短い方が心に残る。

イ 大きい声で明確にする。軍隊式の押し付けがましい切り口上ほど、子どもの嫌いなものはない。

ウ 言葉遣いに気をつける。相手の立場を傷付けないように言葉を選び、反感を持たれないように。

エ 原稿を作っておく。その時にいない部分や重複部分は削ってしまう。(講評に限らずすべてのスピーチには原稿を作ること)。

オ すべて愛情と善意からの評価・助言であること。

5. その他の点検

(1) ハイク出発前

ア ハイクの持ち物以外は最小限にとどめるように指導する。

イ キャンプサイトの整備は完全か。

すべての班装備品をテント収納し、テントは荒天に備えた準備をしておく。外に備品は残さない。かまど、薪、食品の処理は夜と同じ。

ウ 服装は特に注意する。

(2) 徹営後

ア 指導者は分担して返納品を確認する。

- イ 塵芥・残飯類は完全に焼却させる。残った食品類は持って帰らせる。
- ウ 薪・工作物の分解したものは、整理して束ね一カ所に集める。
- エ 便所・ゴミ穴等はすべて埋め、目印を付けておく。
- オ 野営場に残すのは、感謝のみ。

